

100回を数えた松戸での「朗読と文学の会」(下)

継続は力なり／人は宝なり

このコラムは「地元力発見!」の時間と空間により変化(へん)ある。より、またそれている。賢治の魅力の伝道者で

このコラムは「地元力発見!」の時間と空間により変化(へん)ある。より、またそれている。賢治の魅力の伝道者で

参加者紹介

結果「継続は金なり」となる。しかし、一番は「人は宝なり」である。人間は、経験が経験をつくりだして、続きとして紹介したい。竹中速雄・津田さんの朗読の夢の



命名された。本会では当日の進行に合わせ古典も新作も自由自在に披露してくれている。

久保田節子さん「朗読と文学の会」のエンディングは、会場近くの居酒屋スナック「麗ちゃん」での交流会。会の受付から交流会までの影の仕切り役でもある。

101回記念では、桜井昌司さんを偲ぶ講話を表現した。長い本会の悲喜交々を知っている。

その後に開催される交流会では、参加者の最近の1か月の2分間スピーチ。最高齢で一番の智者の橋本弘正さん、紀行解説が得意の碓貴臣さん、茨木のり子の会にもつながる大場誠司さん、シャンソン歌手でもある北川みやこさん、ピアノ奏者の南良誠さん、ホルン奏者の福元英雄さん、高知出身の松本香子さん、映画やアート時評に関心のある佐藤真理さん、最後のメは会場から宴場の仕切り役の大島宏明さん。会長の小山勝さん、幹事の久保田賢三さんの存在感はここでも大きい。

松戸の一夜は、カラオケも声高に、戸定邸の主のような趣味人とともに静かに深まる。

1950年山形生まれ。東京都立大院卒。元千葉大大学院工学研究科准教授(金属疲労専攻)。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のクラブで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画。すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人洗楓座代表。一般財団法人「エコミュージアムいすみ」代表。

他の存在と意義を理解する能力は「エンパシー」と呼ばれるが、これは人間だけがもつ力であろう。表現の世界も、変化し発展している。11月4日、東京の表参道(南青山)の能舞台で演じられた朗読/語りの会に参加した。文学や芸術表現は、演者の経験と技巧、



佐藤幸夫さんー宮沢賢治の中学・高校・大学と重なる履歴を持つ。



田ノ中星之助さんー毎回、本会を岩手県の訛りを交えて朗読してくれる。賢治師。名前の由来は、プラネタリウムの作品資料と、その解



地元力発見!!

(49)

佐藤建吉 「洗楓座」代表

毎回、宮沢賢治の作品を岩手県の訛りを交えて朗読してくれる。賢治師。名前の由来は、プラネタリウムの作品資料と、その解